

6章 アンケートから見たインターネットの利用 の有無と利用時間

6章 アンケートから見たインターネットの利用の有無と利用時間

6.1 インターネットの利用率

6.1.1 全体の傾向

本調査では、昨年までの調査とほぼ同様に¹、インターネットの利用を(1)「パソコン(ワープロ機、ゲーム機、PDAを含む)を使って、インターネットのEメールを見たり、送ったりする」、(2)「パソコンを使って、インターネットのウェブサイトを見る」、(3)「携帯電話で、@つきのアドレスにメールを送る」、(4)「携帯電話で、情報サイトを見る」の4つについてそれぞれ利用しているかどうか答えてもらった。(1)(2)はPC経由のインターネット利用、(3)(4)は携帯電話経由のインターネット利用である。本報告書では、(1)、(2)、(3)、(4)のうち少なくとも一つを利用していると答えた人を、「インターネット利用者」と定義している。また、(1)、(2)のうち少なくとも一つを利用していると答えた人は「PCインターネット利用者」、(3)、(4)のうち少なくとも一つを利用していると答えた人は「携帯インターネット利用者」と呼ぶことにする。

この定義によるインターネット利用者は、無回答を除く調査対象者の60.8%であり、非利用者は39.2%となった。インターネットの利用率は、2003年調査に比べると約8%の増加となっている(図6.1.1)。

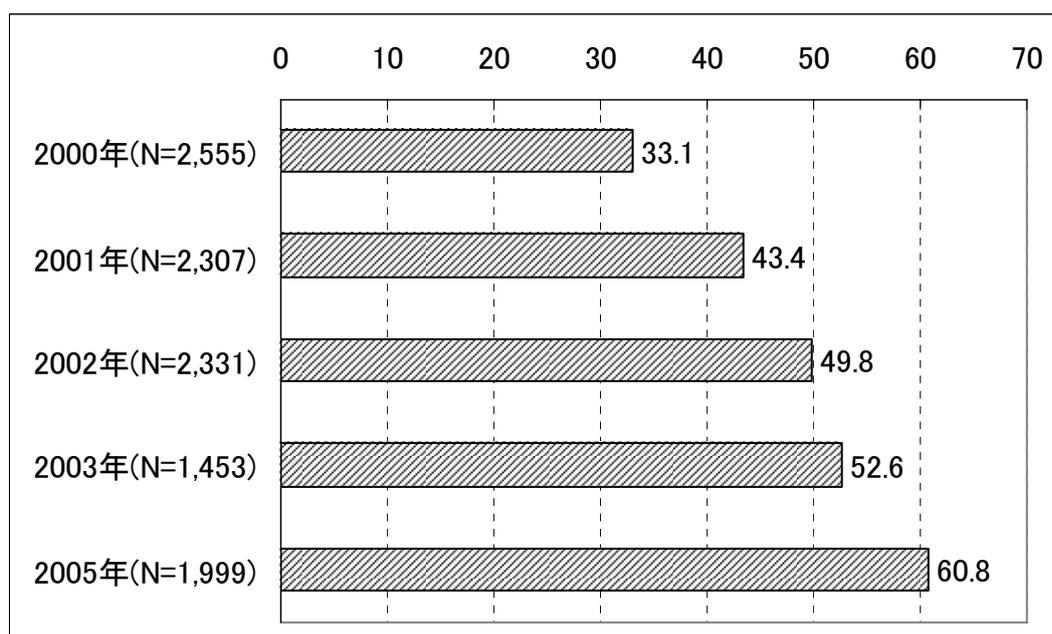


図 6.1.1 インターネット利用率の変化(2000年~2005年)(%)

インターネット利用の内訳をグラフにしたものが図6.1.2である。2003年から2005年にかけては、パソコンを利用したインターネット利用が6.9%増加しているのに対して、携帯電話によるインターネット利用は4.5%の増加にとどまっている。この二年間は、パソコンによるインターネット利用の拡大が特に顕著であったといえる。

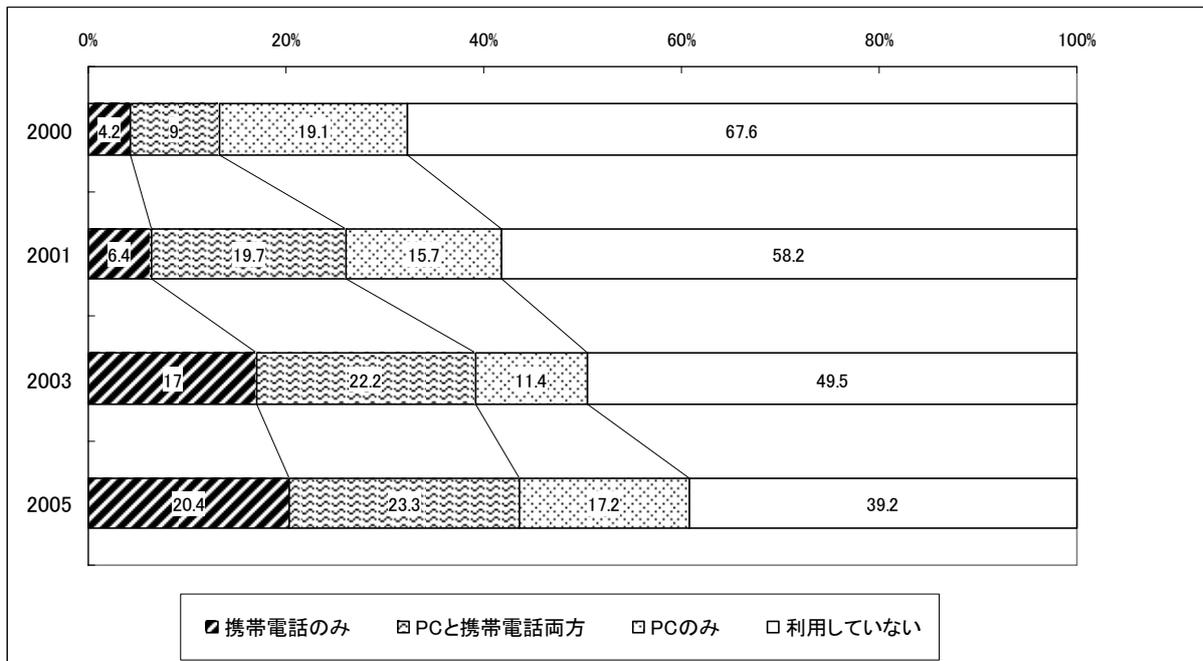


図 6.1.2 メディア別インターネット利用率の年度間推移

6.1.2 属性別にみたインターネット利用率

性別にインターネットの利用率を比較してみると、男性が 61.9%、女性が 59.9%となっており、2.1%の差がある。2003 年に比べると、男女間の利用率格差は縮まり、ほとんど性差は見られなくなった（図 6.1.3）。

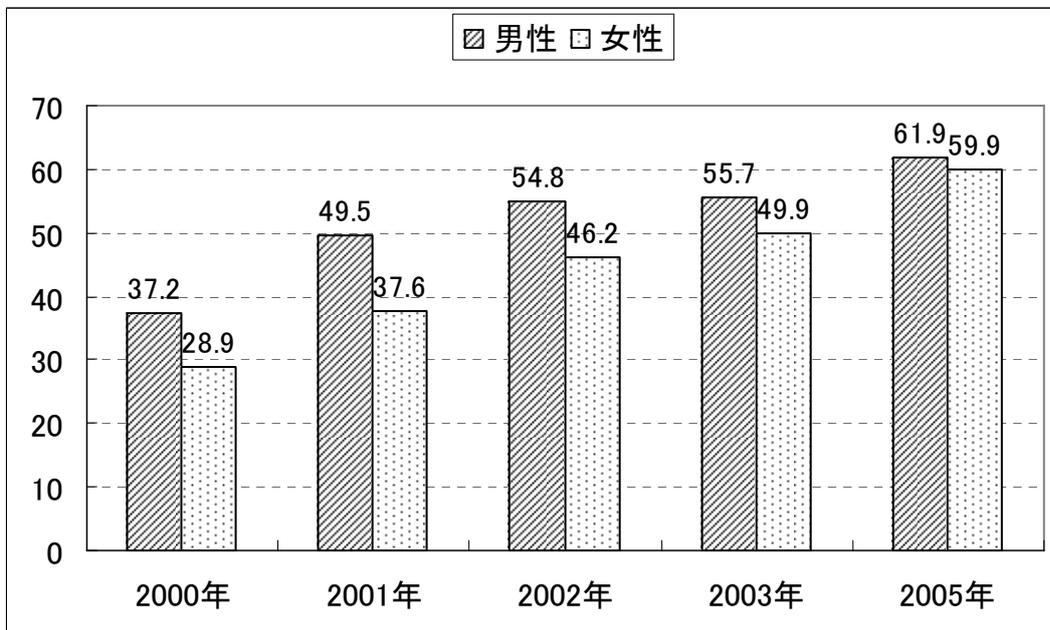


図 6.1.3 性別にみたインターネット利用率の変化（2000年～2005年）（%）

表 6.1.1 は、主要な属性別にインターネット普及率、PCインターネット普及率、携帯インターネット普及率を求めたものである。属性ごとの χ^2 検定の結果も示してある。インターネット普及率については、性別を除く全ての属性について χ^2 検定の結果は統計的に有意になった。興味深いのは、男女でインターネット利用率には差が見られないが、PCインターネットと携帯インターネ

ットに分けるどちらも性差が見られるということである。PCインターネットは男性の方が14%も利用率が高く、携帯インターネットは逆に、女性の方が7%ほど高い。

表 6.1.1 属性別のインターネット利用率

		N	インターネット 利用率(%)	PC インターネ ット利用率(%)	携帯インター ネット利用率 (%)
性別	男	925	61.9	47.8	46.3
	女	1074	59.9	34.1	53.7
	χ^2 検定		0.9(n.s)	38.7(***)	27.5(***)
年齢	12～19 歳	208	83.2	50.5	69.7
	20～29 歳	226	85.0	55.3	72.6
	30～39 歳	399	83.2	53.9	64.9
	40～49 歳	362	66.9	50.6	40.3
	50～59 歳	436	42.0	28.9	24.1
	60～74 歳	368	25.5	14.7	14.7
	χ^2 検定		445.5(***)	200.3(***)	402.7(***)
学歴	中学校	230	32.6	20.4	20.0
	高校	1028	54.3	30.5	42.2
	高専・短大	321	75.4	48.0	60.4
	大学・大学院	414	81.6	70.8	47.3
	χ^2 検定		199.3(***)	245.5(***)	92.2(***)
世帯年収	200 万未満	154	36.4	21.4	29.2
	200～400 万未満	481	48.6	26.6	38.5
	400～600 万未満	499	63.3	39.3	44.7
	600～800 万未満	352	68.5	51.1	45.2
	800～1000 万未満	188	71.8	53.7	49.5
	1000～1200 万未満	85	71.8	56.5	48.2
	1200 万以上	80	81.3	62.5	53.8
	χ^2 検定		105.5(***)	117.6(***)	25.2(***)
職業	フルタイム	925	65.1	50.2	40.9
	パート・アルバイト	355	56.1	30.1	45.6
	専業主婦	321	51.7	24.9	41.7
	学生・生徒	228	85.1	54.8	72.8
	無職	170	32.4	18.8	19.4
	χ^2 検定		135.8(***)	136.6(***)	123.4(***)
都市規模	東京・政令都市	474	65.0	45.5	44.7
	人口 10 万以上	784	63.1	40.3	46.7
	人口 10 万未満	376	56.1	38.8	39.6
	町 村	365	55.3	35.9	40.0
	χ^2 検定		13.3(**)	8.3(*)	7.6(n.s)
地域	北海道	109	58.5	39.4	42.2
	東北	144	51.4	32.6	40.3
	関東	625	66.6	48.0	48.2
	中部	368	57.6	37.0	40.8
	近畿	349	65.9	42.1	44.7
	中国	114	57.9	36.0	43.9
	四国	69	60.9	34.8	44.9
	九州・沖縄	221	50.7	31.7	37.7
	χ^2 検定		29.5(***)	29.7(***)	11.8(n.s)
従業員規模	なし・家族従業員のみ	114	35.1	19.3	26.3
	100 人未満	287	67.9	49.8	43.2
	100～299 人	85	67.1	57.6	48.2
	300～999 人	83	79.5	63.9	47.0
	1000 人以上	89	80.9	69.7	42.3
	官公庁・公社・公団など	51	70.6	68.6	33.3
	χ^2 検定		52.9(***)	58.1(***)	15.2(*)

n. s $p > 0.05$ (有意差なし), * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

表 6.1.2 属性変数を独立変数としたロジスティック回帰分析の推定結果

独立変数	カテゴリー	従属変数		
		インターネット利 用	PC インターネット 利用	携帯インターネッ ト利用
性別	男	-0.008	0.132	-0.242 **
	女	0.008	-0.132	0.242 **
	Wald	0.011	3.508	11.328 **
年齢	12～19 歳	0.937 *	0.960 **	0.700
	20～29 歳	1.023 ***	0.366 *	1.118 ***
	30～39 歳	0.863 ***	0.439 **	0.769 ***
	40～49 歳	-0.263	0.138	-0.366 **
	50～59 歳	-1.167 ***	-0.742 ***	-1.014 ***
	60～74 歳	-1.393 ***	-1.161 ***	-1.206 ***
	Wald	204.605 ***	97.603 ***	204.596 ***
学歴	中学校	-1.372 ***	-0.914 ***	-1.298 ***
	高校	-0.016	-0.350 ***	0.386 ***
	高専・短大	0.388 **	0.215	0.552 ***
	大学・大学院	1.001 ***	1.049	0.361 **
	Wald	76.426 ***	102.846 ***	39.441 ***
世帯年収	200 万未満	-0.978 ***	-0.668 **	-0.614 **
	200～400 万未満	-0.411 **	-0.518 ***	-0.082
	400～600 万未満	-0.188	-0.312 **	-0.146
	600～800 万未満	0.038	0.132	-0.070
	800～1000 万未満	0.406	0.328 *	0.336 *
	1000～1200 万未満	0.231	0.411	-0.011
	1200 万以上	0.902 **	0.626 **	-0.587 *
	Wald	38.573 ***	40.863 ***	17.494 **
職業	フルタイム	0.075	0.506 ***	-0.067
	パート・アルバイト	-0.217	-0.099	-0.099
	専業主婦	-0.382 *	-0.354 *	-0.271
	学生・生徒	0.936	0.019	1.120 **
	無職	-0.411	-0.071	-0.683 **
	Wald	11.235 *	24.215 ***	14.543 **
都市規模	東京・政令都市	0.266 *	0.176	0.119
	人口 10 万以上	0.105	-0.018	0.155
	人口 10 万未満	-0.129	0.017	-0.100
	町 村	-0.242 *	-0.174	-0.175
	Wald	9.062	3.838	5.836
地域	北海道	0.152	0.290	0.107
	東北	-0.528 **	-0.294	-0.294
	関東	0.134	0.299 *	0.085
	中部	0.056	0.096	-0.068
	近畿	0.233	0.045	0.022
	中国	-0.028	-0.163	0.241
	四国	0.219	-0.208	0.136
	九州・沖縄	-0.238	-0.066	-0.230
	Wald	12.220	10.953	6.174
定数項		0.761 ***	-0.436 ***	-0.375 **

* p<0.05, ** p<0.01, *** p<0.001

さらに、これらの属性変数の独立の効果を見るために、ロジスティック回帰分析を行った。その結果を表 6.1.2 に示す（ただし、有職者のみに定義できる「従業員規模」は独立変数から除外した）。係数は各カテゴリーの効果を平均からの偏差で表したものであり、各属性の全てのカテゴリーの係数を合計すると 0 になるように調整されている。この結果をみると、インターネット利用に影響を与えている変数は、年齢、学歴、世帯収入、職業であることがわかる。年齢が若いほど、高学歴であるほど、高収入であるほどインターネット利用率が高い。また、職業の結果は、家庭主婦のインターネット利用率が統計的に有意に低いことを示している。

インターネット利用率を PC インターネットと携帯インターネットに分けて分析した場合も、結果はほぼ同様である。PC インターネット利用に影響を与えている変数は、年齢、学歴、世帯年収と職業である。携帯インターネットに影響を与えている変数はやや異なり、性別、年齢、学歴、世帯年収と職業である。都市規模や地域ブロックによる影響は、いずれも各変数の効果を全体的にみると統計的に有意とは認められない（ただし、インターネット利用率に対する東京・政令都市の効果が有意など個別に有意な係数を示したカテゴリーはある）。

6.2 インターネット普及格差の時系列比較

以下では、年齢、世帯収入、学歴にともなうインターネット普及率の格差が時系列的にどのように変化してきたのかを Gini 係数を用いて論議する。これらの3つの変数は、6.1の分析結果において、いずれもインターネット利用に有意に影響を与えていることが認められている。

6.2.1 年齢の影響の時系列比較

インターネットの利用率における年齢間の格差は、少しであるが縮小傾向にある。Gini 係数を計算したところ、2000年 0.308、2001年 0.266、2002年 0.242、2003年 0.241、2005年は 0.204 と少しずつではあるが一貫して格差が縮小している¹¹。

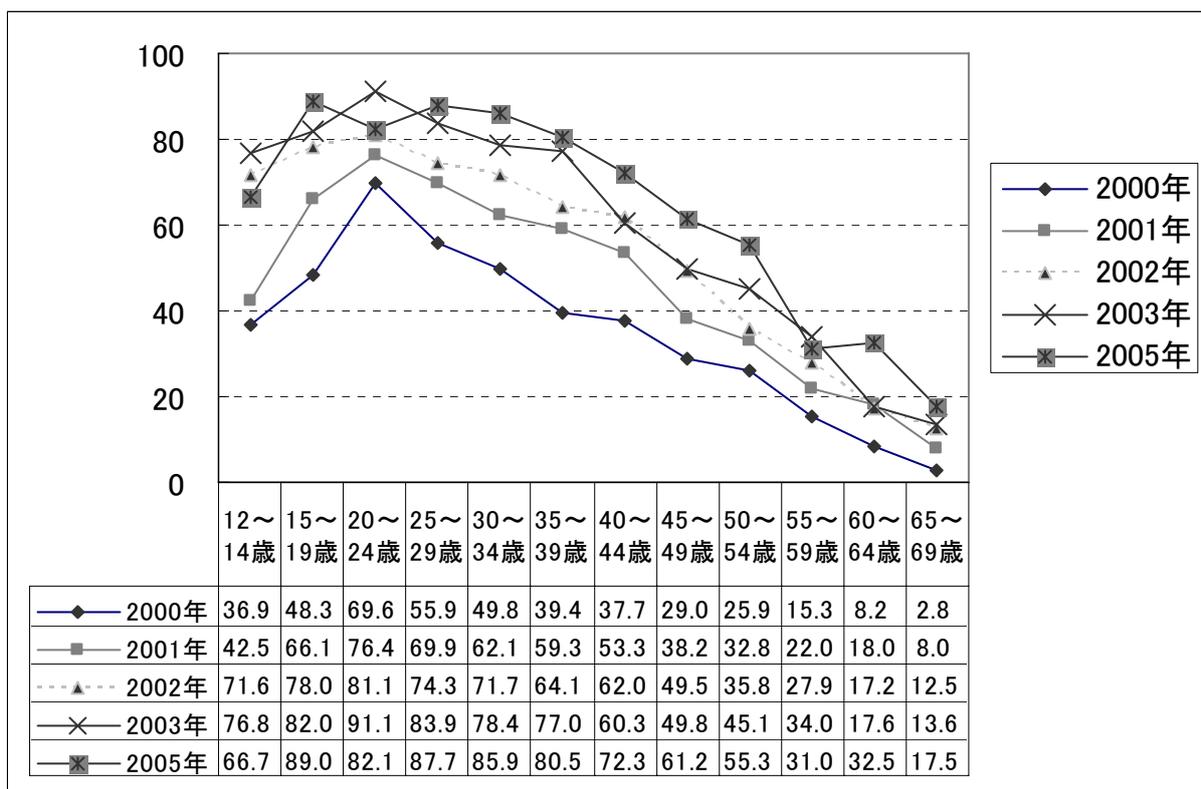


図 6.2.1 年齢別にみたインターネット普及率の推移（2000-2005年）

6.2.2 世帯収入の影響の時系列比較

日本では世帯によるインターネット普及の格差はそれほど大きくはない。世帯年収による格差も、2000年に 0.189、2001年 0.155、2002年 0.153、2003年 0.158、2005年に 0.125 と、やはり少しずつであるが縮小している。

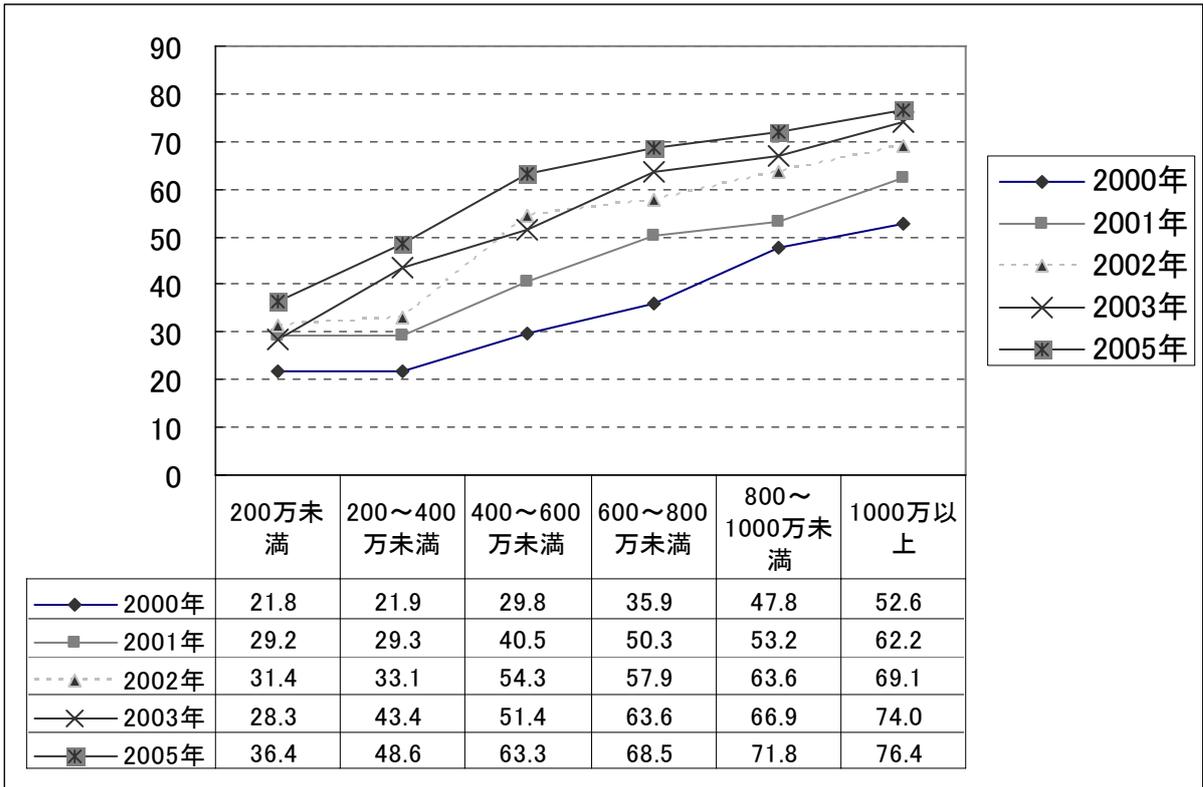


図 6. 2. 2 世帯年収別に見たインターネット普及率の推移（2000-2005年）

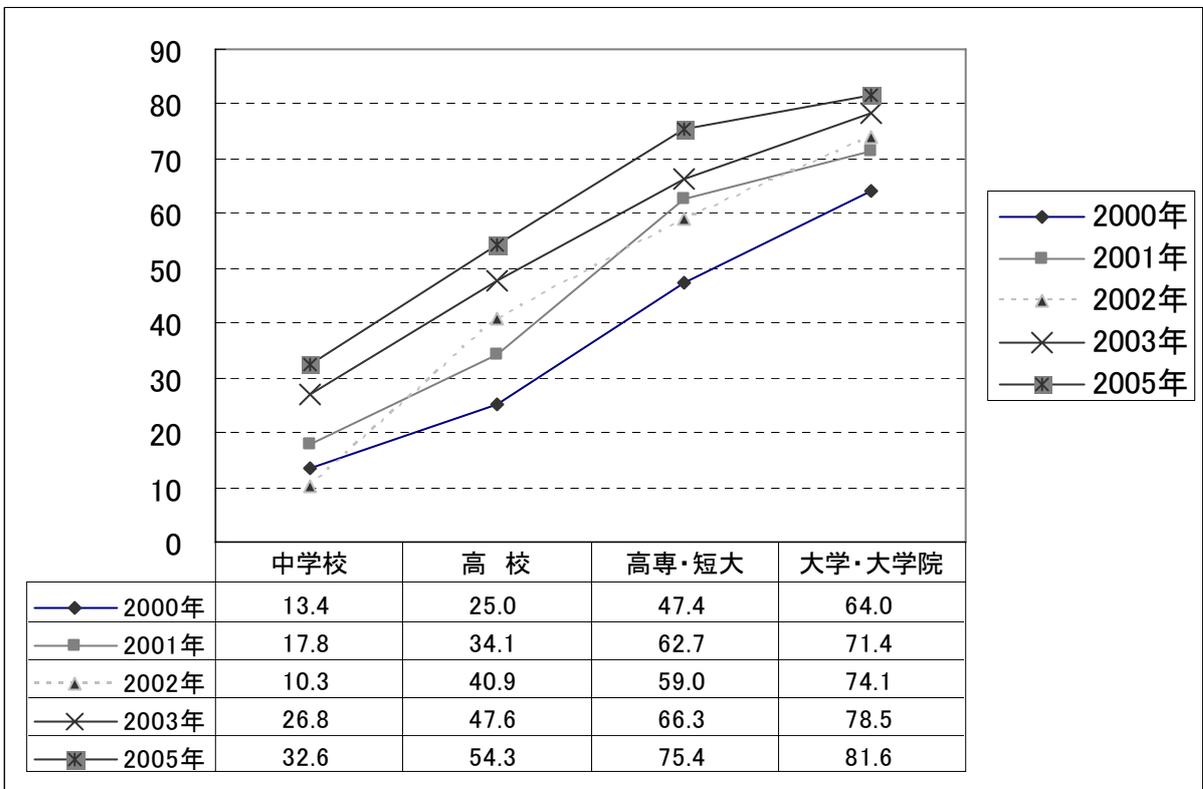


図 6. 2. 3 学歴別に見たインターネット普及率の推移（2000-2005年）

6.2.3 学歴の影響の時系列比較

学歴による格差も縮小している。2000年 0.291、2001年 0.255、2002年 0.284、2003年 0.198、2005年には 0.172 とやはり少しずつではあるが、Gini 係数は減少傾向にある。

6.2.4 まとめ

これらの結果は、インターネットの普及格差が、いずれの属性においても縮小していることを示している。地域や性別など、今年度の結果では格差が見られない変数もある。性差は、今年から見られなくなった。都市規模はもともとそれほど格差が大きくなかった(2000年に Gini 係数=0.09)が、さらに縮小した(2005年 Gini 係数=0.04)。

デジタルデバイドとして問題にされることが多いインターネットの普及格差は、時代変化の方向としては縮小しつつあるといえる。

6.3 インターネットの利用形態

本調査では、自宅で PC インターネットを家族といっしょに使うことが多いか、一人で使うことが多いかを聞いている(問 18)。結果は、

「家族と一緒に画面を見ながら利用することが多い」 4.8%

「自分ひとりで利用することが多い」 35.6%

「どちらも同じくらい」 3.9%

「自宅では利用しない」 52.1%

と大部分が一人での利用であった。テレビの場合、家族と一緒に見るのが 48% (問 17) であるのと比べると、利用形態はかなり個人的な使い方に偏っているといえよう。以下では、「家族と一緒に利用する」と「どちらも同じくらい」をあわせて、「共同利用」、「自分ひとりで利用することが多い」を「単独利用」として、比率を主要な属性ごとにみてることにする。

表 6.3.1 属性変数別にみたインターネットの利用形態

		共同利用(%)	単独利用(%)
性別	男	10.9	89.1
	女	27.9	72.1
	χ^2 検定	41.3***	
年齢	12~19 歳	9.1	90.9
	20~29 歳	10.7	89.3
	30~39 歳	20.9	79.1
	40~49 歳	24.9	75.1
	50~59 歳	24.1	75.9
	60~74 歳	26.0	74.0
	χ^2 検定	22.5***	
学歴	中学校	23.7	76.3
	高校	24.3	75.7
	高専・短大	21.9	78.1
	大学・大学院	10.7	89.3
	χ^2 検定	20.8***	

*** p<0.001

表 6.3.1 の結果をみると、性別、年齢、学歴のいずれでもインターネットの利用形態には大きな差があることがわかる。女性、高齢者、低学歴ほど家族といっしょに使う比率が高いようである。これは、表 6.1.1 における PC インターネットの普及率が低い層とほぼ重なっている。利用形態ごとにインターネットの利用平均時間（次節参照）を計算したところ、「家族と一緒に見る」利用者が最も利用時間が短く、「一人で利用する」が最も利用時間が長かった（ $F=4.9$, $df=3$, $p<0.001$ ）。

表 6.3.2 インターネットの利用形態別にみたインターネット利用平均時間

	インターネット 利用平均時間（分）
家族と一緒に画面を見ながら利用することが多い	51.1
自分ひとりで利用することが多い	80.4
どちらも同じくらい	71.4
自宅では利用しない	57.0

6.4 インターネット利用時間

本調査では、日記式調査とは別に通常の質問紙調査で平日と休日の一日あたりインターネット利用時間(PC インターネットと携帯インターネットの合計)を尋ねている。そこで(平日*5+休日*2)÷7で一日あたりインターネット平均利用時間を定義し、属性別の平均値を求めてみた(本章では日記式調査の部分の結果については省略する)。利用者だけの平均値は73.2分(N=1041)、非利用者を含む(0分として計算)の平均値は37.6分(N=2029)であった。なお、平日と休日のインターネット利用時間の相関係数は、利用者だけの場合は0.635、非利用者を含む場合は0.420であったⁱⁱⁱ。

表 6.4.1 は、利用者限定したインターネット利用時間の平均値である。この結果から、インターネットの普及率とは別に利用時間についても、様々な属性変数で格差が存在することがわかる。たとえば、男女でインターネットの普及率自体は差がないが、利用時間でみるとかなり男性の方が長い(男性は PC インターネット、女性は携帯インターネット利用が多いためであろう)。また、若者の利用者ほど利用時間が長いこともわかる。

一般に普及率の低い属性の利用者は、普及率が高い属性の利用者に比べて、同じ利用者でも利用時間が短い傾向がある。表 6.2.1 の「インターネット利用率」と表 6.3.1 のインターネット利用時間について、各々対応する 41 個の属性カテゴリーの普及率を従属変数、平均利用時間を独立変数とする回帰分析を行ったところ、

$$\text{インターネット普及率(\%)} = -14.1 + 0.860 \text{ 平均利用時間(分)}$$

という回帰式が得られた。二つの変数の間の相関係数は、0.837 ($p<0.001$) というきわめて高い値であった。したがって、インターネットの普及率が高い属性の利用者ほど、長い時間インターネットを使う傾向があるといえる。また、前節ではやはり普及率の低い属性の回答者は、家族と一緒に使う比率が高いなど使い方にも格差が見られた。これらの結果は、**デジタルギャップの二重性**—普及率と利用時間が同時に利用者の同時に格差をもたらしていること—があることを意味している。たしかに普及率でみた格差は縮小しているが、利用時間や利用方法などを含めた総合的な格差を、今後は問題にしていく必要があることを示している。

表 6.4.1 属性変数別にみたインターネット利用時間の平均値(分数)

属性変数		インターネット 利用時間平均 値	属性変数	インターネット 利用時間平均 値	
性別	男	46.6	都市規模	東京・政令都市	45.3
	女	29.9		人口 10 万以上	37.6
	F 検定	23.2***		人口 10 万未満	34.2
年齢	12～19 歳	78.3	町 村		31.0
	20～29 歳	69.1		F 検定	2.7*
	30～39 歳	47.9	地域	北海道	34.8
	40～49 歳	37.7		東北	38.9
	50～59 歳	17.5		関東	49.6
	60～74 歳	8.8		中部	26.0
	F 検定	39.6***		近畿	34.4
学歴	中学校	23.2	中国	35.9	
	高 校	31.0	四国	49.0	
	高専・短大	38.4	九州・沖縄	25.2	
	大学・大学院	62.0	F 検定	4.5***	
	F 検定	19.2***	従業員規模	なし・家族従業員 のみ	16.5
世帯年収	200 万未満	29.5		100 人未満	41.0
	200～400 万未満	28.7		100～299 人	45.6
	400～600 万未満	35.1		300～999 人	54.4
	600～800 万未満	42.3		1000 人以上	60.7
	800～1000 万未満	36.9		官公庁・公社・公団 など	32.5
	1000～1200 万未満	48.6		F 検定	6.1***
	1200 万以上	42.3			
F 検定	2.1(n.s)				
職業	フルタイム	40.2			
	パート・アルバイト	25.2			
	専業主婦	20.9			
	学生・生徒	83.5			
	無 職	19.8			
	F 検定	29.8***			

参考文献

石井健一 (2002) インターネットの普及格差—WIP 調査による分析、情報通信学会誌、19(2)、64-65.

i ただし、2000 年調査、2001 年調査では、インターネット利用を「ウェブ（ホームページ）を見たり、Eメールをやりとりすることを指し、携帯電話・PHSでの情報サイト（iモードなど）やEメール（@つきのアドレスを持つもの）の利用、Lモードなどの利用も含む」と定義している。2002 年以降は、Lモードは調査項目から除かれている。

ii Gini 係数 0 から 1 の値をとり、値が大きいほど階層間で不均等に分布していることを示す。完全に均等に分布している場合 0、完全な不均等の場合 1 となる。なお、Gini 係数を計算するにあたって、属性別の(年齢、収入、学歴)各カテゴリーの人数を等しいとみなした。

iii インターネット利用時間の質問（問 5）のインターネット利用者（利用時間が書かれている）とインターネットの利用者の定義(問 7)の結果は、必ずしも一致していない。有効回答数 1999 人のうち、1673 人(83.7%)は一致したが、326 人(16.3%)は一致しなかった。そのうち 72 人は問 5 でインターネット利用時間を答えたにもかかわらず問 7 では利用していないとした。254 人は問 5 でインターネットを利用していないと答えたが、問 7 でインターネットを利用中だと答えた。

